

1361

27
61

教會祭日問答

司祭テ、ロマノフ編

松本高太郎譯

正教會出版

教會祭日問答

目錄

教會祭日の事……………一

復活大祭の事……………三

復活大祭に於ける信者間の風俗の事……………六

十二大祭の事……………一三

第一、聖母誕生祭の事……………一四

第二、擧榮聖架祭の事……………一五

第三、聖母進堂祭の事……………二〇

第四、救主降誕祭の事……………二四

第五、救主洗禮祭の事……………二七



二

第六、救主進堂祭の事……………三〇

第七、聖母福音祭の事……………三四

第八、聖枝祭の事……………三六

第九、救主昇天祭の事……………四〇

第十、聖神降臨祭の事……………四二

第十一、救主顯榮祭の事……………四五

第十二、聖母就寢祭の事……………四八

十二大祭外の大祭の事……………五一

救主割禮祭の事……………五三

至聖三者祭の事……………五五

尊き十字架の出行祭の事……………五六

救主の自印聖像遷移祭の事……………五七

聖母守護祭の事……………六〇

聖母顯跡聖像祭の事……………六二

前驅イオアン誕生祭の事……………六八

前驅イオアン致命祭の事……………七一

神使首ミハイル及び其他無形軍の會聚祭の事……………七三

聖使徒イオアン記憶祭の事……………七四

聖使徒ペートルパウエル記憶祭の事……………七六

聖預言者イリヤ記憶祭の事……………八〇

奇蹟者聖ニコライ記憶祭の事……………八一

ケサリヤの大主教聖大ワシリイ記憶祭の事……………八四

神學者聖グリゴリイ記憶祭の事……………八六

聖金口イオアン記憶祭の事……………八九

三成聖者大ワシリイ神學者グリゴリイ金口イオアン
 記憶祭の事……………九五

モスクワの府主教聖ペートル記憶祭の事……………九六

モスクワの府主教聖アレキセイ記憶祭の事……………一〇〇

モスクワの府主教聖イオナ記憶祭の事……………一〇四

三成聖者モスクワの府主教ペートルアレキセイイオ
 ナ記憶祭の事……………一〇七

モスクワの府主教聖ヒリッパ記憶祭の事……………一〇八

ラドネジの奇蹟者克肖なるセルギイ記憶祭の事……………一一一

目錄終

特18
~~708~~
118

教會祭日問答

教會祭日の事

問教會の祭日とは如何なる日を指すや。

答教會の祭日は信徒各其業を休み俗務を棄て、専ら其心を神に向
け祈禱を務め、總て敬虔なる行ひを爲して送るべき日を指して云ふ
なり。

問何故に教會は信徒に對して祭日に俗務を營むことを禁ずるや。

答信徒が俗務の爲に其心を亂さるゝことなく、心を専らにして神に事
ふるが爲なり。

問教會は祭日を如何様に守るべきことを信徒に命ずるや。

答聖堂に詣りて公祈禱に興り、説教を聽問し、又自宅に在りては祈禱を

務め、聖教の書物を読み、或は靈に屬するの談話を爲し、病者を見舞ひ、
悲める者を慰め、及び慈善を行ふ等のことを命ず。

問 祭日は其初め誰に因りて立てられしや。

答 神の立て給へるなり。乃ち神は七日の中の一日を以て聖日と爲し、此

日に於て俗務を營むことを禁じ給へり。

問 舊約の教會にては七日の中の如何なる日を以て祭日と定められし

や。

答 七日の中の終りの日、即ち安息日と名づけらるゝ日を以て祭日と定

められたり。

問 新約の教會にては七日の中の如何なる日を祭日と定められしや。

答 新約の教會にては救主イ、ス、ハリストスの復活以來七日の中の

初日、即ち復活日と名づけらるゝ日を以て祭日と定めらるゝに至れ

り。

問 何故に教會は復活日の外他の日に於ても祭日を立てられしや。

答 舊約教會に於ても安息日の外に或事蹟を記念するが爲に祭日と定

められたるものありしが如く、新約教會に於ても復活日の外に神及

び聖母諸聖人を記念するが爲に祭日と定められたる日を有するな

り。

問 諸祭日中如何なる祭日が最も大切なる日なるや。

答 諸祭日中最も大切なるものは復活大祭なり。

復活大祭の事

問 ハリストスの復活大祭は何月何日に執行せらるゝや。

答 ハリストスの復活大祭は四月より五月に亘るの間に執行せられて

豫め一定せず、早きは四月三日に當り、遅きは五月五日に當ることあり。

問此祭日はハリストスの如何なる事蹟を記憶するものなるや。
答我等の救主イ、ス、ハリストスが死して葬られし後、第三日に死よ
り復活せしことを記憶するものなり。

問イ、ス、ハリストスは如何にして死より復活せしや。

答イ、ス、ハリストスの死して葬られし後、第三日の黎明に大なる地
震ありて、神の使は墓の石を轉して其上に坐せり、而て其時主は墓よ
り復活せり。

問イ、ス、ハリストスの復活せし時、其墓を警護せし番兵等は如何に
せしや。

答彼等は恐懼戰慄きて皆逃げ走れり。

問イ、ス、ハリストスは何を以て己が復活の眞實なることを其弟子

等に示せしや。

答彼は四十日の間屢々其門徒に現れて、己が復活の眞實なることを示
し給ひたり。

問彼は復活の後誰に現れしや。

答彼は先づ携香女と名づけらるゝ女弟子に現れ、ペートルに現れ、エン

マウスに行かんとする二人の弟子に現れ、イアコフに現れ、總ての使
徒に現れ、又或時は五百人以上集まり居りし衆信者の前に現れたり。

問何故にハリストスの復活祭を以て諸祭日中の大祭とせらるゝや。

答主は其復活を以て我等人類の救贖を完結し、及び我等信者の爲に復
活の本源を開き給ひたればなり。

問教會の師父等は此復活大祭を呼んで何と名づけられしや。

答祭の祭、祝の祝と名づけられたり。

問神學者グリゴリイは此祭日が他の祭日に秀づる所以を何と言ひ顯しや。

答彼は此理を説きて曰く「夫れ太陽は其光力に於て衆星を壓するが如く、ハリストスの復活祭も亦諸祭日の上に位するものなり」と。

問此祭日は一名何と名づけらるや。

答一名「パスハ」と名づけらる蓋「パスハ」とは「エウレイ」の語にして「逾越」の意なり。

問何故に主の復活祭を「パスハ」即ち「逾越」と名づくるや。

答昔時「エウレイ」人が「埃及」人の「羈厄」を脱して神約の地に遁れたるの事蹟は、主が復活して死より生命に移りたるの豫象を示すものなればなり。

復活大祭に於ける信者間の風俗の事

問復活大祭に於ては信者間に如何なる風俗行はるや。

答其風俗として信者互に己の信仰を言ひ顯し、甲の人ハリストス復活せりと唱ふれば、乙の人之に答へて實に復活せりと唱へ、而て互に接吻し、或は赤く染めたる鶏卵を進め合ひ、又復活祭の當日聖堂に携へ行きたる餅と乾酪と鶏卵とを祈禱の後己が家に持ち歸りて復活祭の一週間之を食し、又或聖堂にては復活祭の週間即ち光明の週間と名づけらるゝ週間の終りの日に大なる感謝の祈禱を行ふて、「アルトス」と名づくる餅を各信徒に分與するの風俗あり。

問復活大祭に於て信者互に主の復活を表證するは何の爲なるや。
答是信者が其心の喜びを表するものにして、又一は聖使徒等の例に則するものなり。

問次に信者互に接吻するは何の爲なるや。

答是信者相互の平和と愛とを表するが爲なり。

問次に又信者が接吻を行ふ時互に赤く染めたる鶏卵を進め合ふは何の爲なるや。

答是亦信者が其心の喜びを表するものなり。

問復活祭の喜びを表するが爲に赤く染めたる鶏卵を用ふるの風俗は何時の頃より始まりしや。

答此風俗は既に聖使徒等の時代より行はれしものなれども殊にマグリナのマリヤが羅馬の皇帝テオドオリイに赤く染めたる鶏卵を獻げてハリストスの復活を宣べ傳へたるに因りて後來教會一般の風俗を爲すに至りしものなりと言ひ傳へらる。

問赤く染めたる鶏卵は我等に何の意を示すや。

答鶏の卵は固形體の死物なる殻中より生命ある雛を出すが如く一度

死せる人々も時來りて來世に復活するを示すなり。

問又鶏卵を赤く染むるは何の爲なるや。

答我等は救主イ、ス、ハリストスが十字架の上に流し給ひし尊血によりて亡びより救はるゝを示すなり。

問復活祭の當日信者が聖堂に餅と乾酪と鶏卵とを携へて供ふるは何の爲なるや。

答復活大祭の聖體禮儀の後是等の供物に神の祝福を願ふが爲なり。

問復活大祭に於て祝福せらるゝ餅をパスハと名づくるは如何なる理由なるや。

答蓋此餅は「我は生命の餅なり」と宣ひしイ、ス、ハリストスの復活を記念せしむるものなればなり。

問復活大祭に於ては前に陳べたるものゝ外猶他に何等の風俗ありや。

答或聖堂又は或修道院に於ては光明の週間の終りの日の聖體禮儀の後に「アルトス」に降福して之を信者に分ち與ふるの風俗あり。

問「アルトス」とは如何なる意味なるや。

答「アルトス」とは希臘の語にて餅の意なり。

問「アルトス」は何時聖堂に供へらるゝや。

答「アルトス」は「パスハ」の首日に聖堂に供へられて光明の週間の終りの日に至るまで聖堂内に置かるゝなり。

問光明の週間中は聖體禮儀の後に、此「アルトス」に對して何を行ふや。

答光明の週間中は聖體禮儀の後に、日々此「アルトス」を捧げて聖堂の周圍に十字行を執行す。

問修道院に於ては此聖餅を十字行を行ひし後、何れの場所に安置するや。

答晚餐室の中特別に設けられたる卓上に安置せらる。

問「ハリストス」の復活大祭に「アルトス」を聖堂内に安置するの例は何に
よりに起りしや。

答此風俗は聖徒使等によりて起りたり。

問聖使徒等は會食の時に如何なる常例を守りしや。

答彼等は會食の時に必ず食卓の正座に餅の一片を安置し、之を以て救主の親臨するの狀を象りしと言ふ。

問何故に聖使徒等は食卓の正座に餅の一片を安置して主の親臨するの狀を象りしや。

答主は其復活の後數々門徒に現はれて彼等の晚餐に降福し、且つ己れ自身も彼等の食する所の食物を食し給ひたればなり。

問「ハリストス」は如何様に聖使徒等に現はれて彼等の晚餐を

祝福せられしや。

答彼は復活せし當日黄昏の頃エンマウスに到る途にて二人の門徒に現れ其夜食に就ける時彼等の晚餐に祝福し又同じ其日の夜にイエ
ルサリムの或家に集りし弟子等に現れ彼等の前にて炙りたる魚と
蜜房とを自ら食して其實に復活せしを證し又テイワエリアダの海
にて弟子等が魚を漁り終夜獲物なくして困り果てたる折しも主は
彼等に現れ餅と魚とを彼等に賜ふて其飢餓を救ひ給へり。
問教會の聖師父等は聖使徒等の例に則りて如何なる風俗を教會内に
立てられしや。

答教會の聖師父等は聖使徒等の例に則りてハリストスの復活祭には
聖堂内に「アルトス」と名づけらるる餅を供へ之を以て復活の後數々
門徒等に現れたるハリストスを象り表したり。

問何故に此アルトスは光明の週間の終りの日に於て聖體禮儀の後に
祝福せられて信者に分ち與へらるるや。

答彼等が之を食してハリストスの復活を記憶し又イ、ス、ハリスト
スは彼等の爲に實に生命の餅なることを記憶せしむるが爲なり。

十二大祭の事

問復活祭即ちパスハの外に如何なる祭日を大祭と名づくるや。

答復活大祭の外に尙教會にては十二の祭日を十二大祭と名づく。

問十二大祭とは何々なりや。

答第一、聖母誕生祭。第二、擧架聖架祭。第三、聖母進堂祭。第四、救主降誕祭。第
五、救主洗禮祭。一名神現祭。第六、救主進堂祭。一名迎接祭。第七、聖母福音
祭。第八、聖枝祭。第九、救主昇天祭。第十、聖神降臨祭。一名五旬祭。第十一、救
主顯架祭。一名變容祭。第十二、聖母就寢祭なり。

第一、聖母誕生祭の事

問聖母誕生祭は何時行はるや。

答毎年九月二十一日に行はる。

問聖母マリヤは何處にて誰より生れしや。

答ガリレヤのナザレト邑に於て、敬虔なるイオアキム及びアンナと云へる兩親より生れ給ひたり。

問イオアキム及びアンナは如何なる先祖の血統より出でしものなるや。

答イオアキムはダワイド王の子孫にしてアンナはアトロンアトロンの血統より出でしものなり。

問然らば聖母マリヤは如何なる種族の系圖を承けしものなるや。

答父の系圖に依れば王族の系圖を承け、母の系圖に依れば祭司長の系

圖を承けしものなり。

問聖母の兩親には年老ゆるまで子無かりしや。

答然り、彼れの兩親なるイオアキムとアンナには年老ゆるまで子なかりき。

問イオアキムとアンナは常に何事を神に祈りしや。

答神の恩寵によりて子を授けらるゝことを常に神に祈りたり。

問神はイオアキム及びアンナの此祈願を遂に納れ給ひしや。

答神は彼等の祈願を納れて獨り彼等のみならず、實に全人類に於ける慰藉者を彼等に降し給ひたり。

第二、擧榮聖架祭の事

問擧榮聖架祭は何時行はるや。

答毎年九月二十七日に行はる。

問此祭日の起原はハリストス降生後何年に始まりしや。

答ハリストス降生後四世紀に始まりたり。

問如何なる原因によりて始まりしや。

答ハリストスの聖なる十字架を發見せし時よりして始まりたり。

問誰に因りて此聖なる十字架は發見せられしや。

答希臘の皇帝コンスタンティン大帝の母エレナに因りて發見せられ

たり。

問コンスタンティン大帝が之を發見せんとするの本望を起されしは

抑何故なりしや。

答コンスタンティン大帝が其敵のマクセンティと戦を開かれし時或

日空中に星の集合にて十字架の形状を爲せるものを認め、且其傍に

「之を以て征せよ」と記されあるを見て大に之を奇とし是必ず神の示

現ならんとて一切の武器に十字架の記章を附けて其敵と戦ひしに、

果して敵を三度破りて凱旋したり。此時よりして帝は如何にかして

主の聖なる十字架を發見せんとの本望を起したり。

問帝は此本望を達するが爲に誰に此事を依託せしや。

答彼は此事を其母エレナに懇託したり。

問太后エレナは如何にして主の聖なる十字架を發見せしや。

答彼はネエルサリムに到り種々苦心の末遂に一人の老人の口より主

の聖なる十字架の所在を知ることを得しが、當時其場所の上には皇

帝アドリアンの建てたる異教の偶像殿ありしかば、之を毀ち除き地

中を發掘して遂に三個の十字架を發見したり。

問此三個の十字架の中より如何にしてハリストスの聖なる十字架を

見分け得たるや。

答此附近に墓地ありて折しも死者を昇き來る者ありければ暫時之を止め置き、右の三個の十字架を一々之に觸れしめたりしに、主の十字架を觸れしめたる時死者は俄然復活せり。之に依りて主の聖なる十字架を見分くるを得たり。

問此奇蹟は此處に集まり居りし衆信者に如何なる感動を興へしや。
答衆皆此奇蹟に驚きて主の聖なる十字架を伏し拜み、又喜び進みて之に接吻したり。

問何故に此時イエルサリムの總主教マカリイは主の聖なる十字架を高く擧げしや。

答多くの人々群り集まりければ各之に接吻するを得ざるのみならず之を見ることをも得ざりしかば、彼は主の聖なる十字架を高く擧げて群衆に示し、又之を高さ場所に立て、衆人に之を拜ましめたり。

問其時群衆は如何なる感動の聲を發せしや。

答衆皆聖なる十字架を伏し拜みて「主憐めよ」と一齊に唱へたり。

問教會は此聖なる十字架の發見せられし日を如何にして記憶するや。

答教會は特別に此日を祭りて之を記憶す。

問擧祭聖架祭の當日を齋日と定めたるは何時の頃より始まりしや。

答ハリストス降生後七世紀より始まりたり。

問ハリストス降生六百十四年には此聖なる十字架に就きて如何なる事起りしや。

答ハリストス降生後六百十四年にペルシヤの王ホヅロイなる者イエルサリムを占領して、種々の聖物と共に此聖なる十字架をも掠奪したり。

問主の聖なる十字架は斯くの如くにして何年間不信者の手に渡り居

答十四年の間彼の悪むべき不信者の手に渡り居たり。

問何人が遂に之を不信者の手より奪ひ返しや。

答希臘の皇帝ネラクルイがホヅロイの子シロイを討伐して前に捕虜

とせられし者と共に此聖なる十字架を奪ひ返したり。

問此事件に因りて教會は何を定めしや。

答教會は是等の事件に因りて此舉築聖架祭の尊嚴を表するが爲に此

日を齋日と定めたり。

第三、聖母進堂祭の事

問聖母進堂祭は何時行はるや。

答毎年十二月四日に行はる。

問何故に聖母マリアは其兩親に伴はれて聖堂に獻せられしや。

答其兩親が神に誓ひたる約束を成し遂げんが爲なり。

問其兩親は如何なることを神に約せしや。

答彼等は神に誓ひ若し神が彼等の祈願を納れて子を授け給ふことあ

らば、其子を必ず神に獻ずべしと約したり。

問彼等は如何に其約束を履行せしや。

答彼等は其約束を履行して聖母の齡三歳に達せし時彼を聖堂に導き

て神に獻じたり。

問聖母の聖堂に獻せられし時は如何なる有様にてありしや。

答彼を送る者は皆手に燭を執り多くの處女等は前に立ちて進み親屬

知己等は後に從ふて行けり。而て聖堂内に務を爲す者は聖歌を歌ふ

て至聖童女を迎へたり。

問彼れの堂に進められし時如何なる異例の出來事ありしや。

答祭司長ザハリヤは聖神の指導に依りて至聖童女マリヤを知らず識
らず至聖所内に伴ひたり。是大なる異例にして此至聖所内は祭司長
が一年間唯だ一回のみ入る所にして、之を犯す者は死刑に處せらる
べき規定にてありき。

問神は此不思議なる出来事に依りて祭司長に何を指し示せしや。

答神は此不思議なる出来事を以て此至聖童女マリヤは實に神の宮た
ることを豫め示し給ひしなり。

問至聖童女マリヤは聖堂に獻ぜられし後何處に住る居られしや。

答彼は聖堂の傍に建てられたる教舎の内において、他の童貞女等と起
臥を共にしたり。

問彼は此教舎の内に在りて如何に生活せしや。

答彼は此處に在りて職業を學び、聖書を読み、殊に祈禱を以て其日を送

りたり。

問彼は何歳に至るまで此處に養はれしや。

答彼は十四歳に至るまで此處に養はれたり。

問彼は其齡十四歳に達せし時何事を神に誓ひしや。

答彼は終身童貞女たらんことを神に誓ひ、且此事を祭司會議に通じた

問祭司會議の決議に依りて彼は遂に何人に聘定せられしや。

答彼は祭司會議の決議に依りて己の親屬なるイオシフに聘定せられ
たり。

問當時イオシフは如何なる年齢の人なりしや。

答彼は此時八十四歳の老人にて且數多の子を持ち居たり。

問何故に至聖童女マリヤはイオシフに聘定せられしや。

答彼はイオシフを假りの夫と定めて其保護を受くるが爲なり。

第四、救主降誕祭の事

問ハリストスの降誕祭は何時行はるや。

答此祭は毎年一月七日に行はる。

問イ、ス、ハリストスは何と云へる地に生れ給ひしや。

答彼はイウデヤのワイフレムと云へる邑に生れ給へり。

問彼の母マリヤは其以前に何と云へる地に住むしや。

答彼は其聘定の夫たるイオシフと共にガリレヤのナザレト邑に住み居たり。

問如何なる事情の爲に彼は其夫イオシフと共にワイフレムに移りしや。

答當時羅馬の皇帝ケサリアウグストの詔命によりて天下の戸籍調査

ありければ、戸籍の登記を受くるが爲に一時其郷里ビフレムに移りたり。

問當時イウデヤは何國の支配を受け居たりや。

答羅馬國の支配を受け居たり。

問イオシフとマリヤはワイフレムに來りて何處に宿りしや。

答雨天の日に牧羊者が牧羊を逐ひ入るゝ爲に設けたる巖窟の中に一夜を明かしたり、蓋四方より戸籍の登記を受けんとて集まり來りたる人多くして宿を求むるに由なかりしが故なり。

問其夜如何なる時刻にイ、ス、ハリストスは生れ給ひしや。

答其夜深更に及びて生れ給ひ、布に裹まれ芻槽の中に置かれたり。

問何人が先に救主の降誕を知りしや。

答ワイフレムの牧羊者が眞先に神の使より救主降誕の福音を受け

たり。

問神の使は牧羊者に如何なる告を爲しや。

答神の使は牧羊者に現れて「我れ爾等に大なる喜萬民に及ばんとする者を福音す、今日ダワードの邑に於て爾曹の爲に救主即ち主ハリストス生れたり」と告げたり。

問「ウイフレエムの牧羊者等は此時天に於て何を見しや。

答彼等は無数の天軍が神を讚美して「至高きには光榮神に歸し、地には平安降り、人には惠臨めり」と歌ふを見たり。

問牧羊者等は神の使の去りたる後何處に走り行きしや。

答急ぎ「ウイフレエムに走せ行き、芻槽に置かれたる嬰兒に尋ね遇ひ、萬民に先んじて之を伏し拜み、且此珍事を四方に言ひ觸らしたり。

問「ハリストス降誕の時東方に當りて如何なる奇象現れしや。

答「ハリストスの降誕に先立ちて「ウイフレエムより遙東方に當り、不思議なる星現れて東方の博士等に一大事件の起りしを知らしめたり。

問東方の博士等は此星を見て如何にせしや。

答彼等は遠く「ウイフレエム」に尋ね來り、萬民の救贖者の降誕を伏し拜み、禮物として携へ來りし黄金、乳香、没薬を獻じて歸りたり。

第五、救主洗禮祭の事

問救主洗禮祭は何時行はるや。

答毎年一月十九日に行はる。

問「イ、ス、ハリストスは何歳に達せし時洗禮を受けしや。

答其齡三十歳に達せし時、イオルダンの河に於て「イオアン」より洗禮を受けたり。

問彼は此時まで何處に在りて生活せしや。

答其母マリヤ及びイオシフと共にガリレヤのナザレト邑に生活せり。
問何故にイ、ス、ハリストスの名は三十歳に達するまで世に著れざ
りしや。

答イウエヤの國俗にては何人も三十歳に達せざるまでは教師の地位
に立つこと能はざりしに因るなり。

問彼は三十歳に達せし時先づ誰の許に到りしや。

答授洗イオアンの許に到りて洗禮を彼に求めたり。

問授洗イオアンは容易く此請を受け納れしや。

答彼はハリストスに向ひ「我爾より洗を受くべきに爾我に就くか」と言
ひて其請を辭みたり。

問其時主はオオアンに向ひ何と答へしや。

答主はオオアンに向ひ「今姑く許せ蓋我等は此くの如く凡の義を盡す

べむ」と答へたり。

問イオアンは遂に主の請を納れしや。

答然り彼は其請を納れて主に洗禮を施したり。

問主が洗禮を受けて水より上りも時如何なる奇蹟の現象ありしや。

答此時天は開けて聖神は鴿の形にて其上に降り又天より神父の聲あ
りて「此は我の至愛の子我が喜べる者なり」との語を聞けり。

問何故に主の洗禮祭を一名神現祭と名づくるや。

答何となれば此時位に於て三なる神の顯現を見たればなり即ち神父
は天に於て聲を發し神子は今洗禮を受け聖神は鴿の形にて其上に
止まれり。

問此祭日に於ては主の洗禮を記憶するが爲に如何なる聖事を行ふや。

答此祭日の前晚或は當日に於て大聖水式を執行す。

問何故に此聖事を殊更に大聖水式と名づくるや。

答平日數々執行せらるゝ小聖水式と區別するが爲に大聖水式と名づける。

問教會は此聖水を以て何を聖にすることを命ずるや。

答信徒各自が其身と其住居とを聖にすることを命ず。

問此聖水は如何なる靈質を有するや。

答此水は金口イオアンの證明に依り及び一般信徒の信ずる所に依りて他の通常の水と異りて何時までも敗腐せざるものなり。

第六救主進堂祭の事

問主の進堂祭は何時行はるや。

答毎年二月十五日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記憶する爲に立てられしや。

答主が生れて後四十日目に聖堂に進められし事蹟を記念するが爲に立てられたり。

問何故に彼は聖堂に進められしや。

答モイセイの法律に依りて聖堂に進められたり。

問モイセイの法律にては男子を生みし産婦に何を行ふことを命ずるや。

答産後四十日目に聖堂に到りて成聖を受け又其嬰兒の代りに一歳の羊或は二羽の鴿を神に獻ぐることを命ず。

問主の聖堂に進められし時如何なる人々が現れて彼を迎へ受けしや。

答シメオンと云へる義人とアンナと云へる預言女が聖神に感じて此嬰兒を萬民の救主なりと認め彼を敬ひ迎へたり。

問義人シメオンは曾て神より如何なる約束を蒙りしや。

答己の生涯の中に救主を見ざる間は、死せざるべしと神より約束せられたり。

問義人シメオンは聖堂にて嬰兒なる救主を抱きし時如何に神を讚美せしや。

答彼は此時神を讚揚して「主宰よ今爾の言に循ひて爾の僕を釋し安んとして逝かしむ蓋我目は爾の救を見たり、爾が萬民の前に備へし者なり、是異邦人を照す光及び爾の民イスラエリの榮なり」と云へり。

問預言女アンナは如何に救主を喜び迎へしや。

答此預言女アンナは當時八十四歳の寡婦にて、晝も夜も聖堂を離れずして神に事居り老者なりしが、主の聖堂に進められし時聖神に感して主を讚揚し、且此事をイエルサリムに在りて救贖を求むる多くの人々に告げ知らせたり。

問此祭は一名何と名づけらるゝや。

答一名迎接祭と名づけらる。

問何故に此祭を一名迎接祭と名づけらるゝや。

答前に述べし如く、義人シメオンと預言女アンナが、主を迎へ接けて彼を讚揚せしに因るなり。

問此祭は古代より一般に各教會にて行はれしものなるや。

答此祭は初世紀に於ては一般に各教會にて行はれざりしが、六世紀に至りて始めて一般の祭日と定まるに至りたり。

問如何なる事件によりて此祭は一般の祭日と定まるに至りしや。

答救主降生後五百四十一年即ち希臘の皇帝ユスチニアンの時、コンスタンティノポリ及び其近傍に於て恐るじき疫病流行し日々數千の人を倒し、之と同時に大地震ありて日々數千の人を壓殺し、ミシヤの

都城ボンベヤの如きは地震の爲に其市街と住民とは地中に埋没せらるゝに至り甚だ惨狀を極めしが、此時皇帝ユスタニアンは神託に従ひて盛に主の進堂祭を執行せしめ熱切に神恩を祈りしかば、忽ち疫癘も地震も鎮まりしと云ふ。以來皇帝ユスタニアンの勅命によりて、主の進堂祭を大祭中に數ふるに至りたり。

第七聖母福音祭の事

問 聖母福音祭は何時行はるゝや。

答 毎年四月七日に行はる。

問 此祭は聖母に關する如何なる事蹟を記念するものなるや。

答 此祭は天使長ガウリイルが至聖童貞女マリヤに現れて、彼が救主を其腹に宿すといふことの告を爲し、を記念するものなり。

問 天使長ガウリイルは至聖童貞女マリヤに現れて如何なる福音を告

げしや。

答 或時至聖童貞女マリヤはナザレトのイオシフの家に在りて餘念なく聖書を読み居たりしが、折しも天使長ガウリイルは忽然として其前に立ちマリヤに告げて曰く「恩寵を蒙れる者慶べよ、主は爾と偕に

す、爾は女の中に祝福せられたり」と

問 至聖童貞女マリヤは此天使長の福音を如何に受けしや。

答 彼は此告を受けて驚き怪み、是如何なることなりやと只だ思案に暮れ居たりき。

問 此時神の使は再び彼に如何なる告を爲し、や。

答 神の使はマリヤに向ひ「マリヤ懼るゝ勿れ蓋爾は神の前に恩寵を獲たり視よ、爾妊みて子を生まん、其名をイ、ス、と名づけん、彼は大きな者となりて至上者の子と稱へられん、主神は彼に其祖ダウ、ドの

位を與へん、彼は永くイアコフの家^に王となりて其國終なからん」と告げたり。

問此時至聖童貞女マリヤは神の使に向ひて如何なる問を爲しや。
答彼は神の使に向ひ「我人に適かざるに如何にして此事あらん」と詰りたり。

問神の使は彼の此疑念を如何に言ひ解さしや。

答神の使はマリヤに對ひて曰く「聖神爾に臨み至上者の能爾を蔭はん、故に生む所の聖なる者も神の子と稱へられん」と。

問至聖童貞女マリヤは此天使の言に對して如何に答へしや。

答マリヤ終に神の使に答へて曰く「我は主の婢なり爾の言の如く我に成るべし」と斯く答へし時主の使は彼を離れて去れり。

第八、聖枝祭の事

問聖枝祭は何時行はるや。

答此祭は毎年復活大祭一週前の主日に行はる。

問此祭は主の如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答主が嚴にイエルサリムに上り給ひし事蹟を記憶するが爲に立てられたり。

問主はイウデヤのバスマ祭即ち逾越節の六日前には何處に居りしや。

答復活せしラザルの居る所のワイファニアに來り、其夜癩者シモンシモンの家に宿れり。

問翌日イイス、ハリストスは弟子等に何事を命ぜしや。

答イ、ス、ハリストスは朝早く弟子等に向ひ彼等に命じて曰く「爾曹の前なる村に往け、直に繋きたる牝驢及び之と偕に在る小驢に遇はん、之を解きて我に牽き來れ、若し爾曹を詰る者あらば主之を需むと

言へ、然らば直に之を遣はさん」と。

問弟子等は果して主の命の如く行ひしや。

答彼等は主の命の如く行ひて驢馬と其子を牽き來り、己等の衣を其上に布き、而て主をして之に乗らしめたり。

問イ、ス、ハリストスがイエルサリムに近づきし時、都城に在りし人

人は如何に主を迎へしや。

答彼等は己の衣を途に布き、或は樹枝を伐りて途に布き、呼び叫んで曰

く「ダウィドの子に、オサンナ」主の名に因りて來る者は祝福せらる、至高に「オサンナ」と。

問イ、ス、ハリストスがイエルサリムに上りし時、人々は彼に就きて

如何に評判せしや。

答人々の中、或者は彼は何人なるやと問ひ、又或者は彼はガリレヤのナ

ザレトより出でしイ、ス、と云へる預言者なりと評し給ひて、都城中之が爲に竦動ちたり。

問イ、ス、ハリストスはイエルサリムの聖堂に入りて如何なることを行ひしや。

答彼は聖堂内に在りて賣買を爲す者、例之は兩替を爲す者、鴿を賣る者等を聖堂外に逐ひ出したり。

問イ、ス、ハリストスは此日の晩に何處へ歸りしや。

答再びワイファニヤに歸りたり。

問イ、ス、ハリストスが嚴にしてイエルサリムに上り給ふことを、何と云へる預言者が如何に此事を預言せしや。

答預言者ザハリヤが左の如く此事を預言せり、「シオン」の女に告げて言へ、視よ、爾の王は柔和にして牝驢及び重任を負ふ者の子なる小驢に

乗りて爾に臨む」と。

問何故に此祭を聖枝祭と名づくるや。

答何となれば此祭日には其昔イウヂヤ人がハリストスを迎へし時の如く信者各樹枝を執りて主を讃揚するが故なり。

問此祭日の祈禱の時に信者は樹枝の外に何を執るや。

答其喜の情を表するが爲に樹の枝と共に燭を執るなり。

第九救主昇天祭の事

問主の昇天祭は何時行はるや。

答此祭は復活大祭後六週間目の木曜日に行はる。

問イ、ス、ハリストスは復活の後四十日の間數々門徒に現れて其後弟子等を何處に導きしや。

答彼等をイエルサリムよりエレオン山に導き給へり。

問エレオン山に到るの途中にて主は何事を弟子等に語りしや。

答神の國のことに就て語りしや。

問主は此時何事を弟子等に命じ給ひしや。

答彼等がイエルサリムを離るゝことなくして聖神の降臨を待ち又萬

國萬民に福音を傳ふべきことを命じ給へり。

問主は是等のことを弟子等に命じ終りし後何處に去り給ひしや。

答主は是等のことを弟子等に命じ終りし後弟子等に降福し俄に雲に

乗じて天に昇りたり。

問此時弟子等は如何にせしや。

答彼等は天を仰ぎて主を拜み茫然として主の行衛を凝視居れり。

問彼等が天を仰ぎて凝視居りし時彼等の前に何人が現れしや。

答白き衣を着たる二人の天使が現れて彼等に語りて曰く「ガリラヤの

人よ何ぞ天を仰ぎて立てる、爾等より天に昇りし此のイ、ス、は、爾等が其天に昇るを見し如く此くの如く復來らん」と。

問主の昇天の後弟子等は何處に歸りしや。
答彼等は、イエルサリムに歸り常に聖堂の内に在りて神を讚美したり。

第十、聖神降臨祭の事

問聖神降臨祭は何時行はるゝや。

答此祭は、ハリストスの復活大祭後五十日目に行はる、故に此祭を一名五旬祭と名づく。

問此祭は主の如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答主の復活後五十日目に聖神が聖使徒等に降りしことを記念するが爲に立てられたり。

問イ、ス、ハリストスが天に昇りし後聖使徒等は何處に在りしや。

答彼等は主の命に依りてイエルサリムの或家に集り、常に此處を離れずして聖神の降臨を待てり。

問主の弟子等は五旬節の日に於て如何なることに出逢ひしや。

答五旬節の日の第三時頃(今の午前六時より九時までの間を云ふ)弟子等は例の如く或家の一室に集り居りしに、俄に天より大風の如き響ありて彼等が集り居りし所の室に満ち、且焰の如きもの現れ、岐れて彼等各の上に降りたり。

問此事のありし後に主の弟子等は如何に變ぜしや。

答彼等は此時より聖神に満たされて、諸國の語を言ひ始むるに至りたり。

問當時イエルサリムに集り居りし諸國の人々等は此不思議なる出来事によりて如何なる感動を惹起しゝや。

答彼等は怪き物音を聞き何事ならんかと弟子等の居りし家の周圍に
走せ集りしに、主の弟子等が諸國諸民の語を自由に語り出づるを聞
きて大に驚き怪みたり。

問聖使徒等は此場に走せ集りし人々に對して何を行ひしや。

答彼等は此場に走せ集りし人々に對して熱心に主の道を傳へたり。

問此傳道の結果は如何に大なりしや。

答此傳道の結果は實に大にして使徒ペートルの如きは一時に三千人
をハリストスの教に歸依せしめたり。

問此祭日に於て聖堂及び信者の居室を樹枝或は花を以て裝飾するの
風俗は何時の頃より起りしや。

答此風俗は遠く舊約の教會より起りしものにして、新約の教會にては

聖使徒等及び猶太教より轉ぜし信者の例に則りて、斯く一般教會の

風俗を爲すに至りたり。

問イウデヤ人等は五旬節に於て如何なる神の法律を守りしや。

答彼等は神の法律に依りて穀物の初穂を神に獻げたり。(利未記二十三
章十至十二)

問此祭日に於て聖堂及び己の居室を樹枝或は花を以て裝飾するは何
の爲なるや。

答舊約の法律に基きて神の恩を感謝するの意を表するが爲なり。

第十一、救主顯榮祭の事

問救主顯榮祭は何時行はるゝや。

答此祭は毎年八月十九日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答此祭は主イ、ス、ハリストスがフ、ワ、アル山上に於て、神の光榮を

顯して容を變じたる事蹟を記念するが爲に立てられたり。問イ、ス、ハリストスは其三年間の傳道の終りに於て何處に行きしや。

答彼は其弟子等と共にガリレヤに行けり。

問彼はガリレヤに到りて何を行ひしや。

答彼は其弟子のペートルイアコフイオアンを随ひてファオル山に登り祈禱を爲したり。

問祈禱する時主の容は如何に變ぜしや。

答其容俄に變じて其面は日の如く耀き其衣は雪の如く皎く光り、モイセとイリヤは光榮の中に現れて主と偕に語り居れり。問此時三人の弟子の中のペートルは感動の餘り思はずも如何なることを言ひ出でしや。

答彼は何を言ふべきかを知らずして主に願ひ求めて曰く「主よ我等此に居るは善し爾若し欲せば我等此に三の廬を建て、一は爾の爲一はモイセイの爲、一はイリヤの爲にせん」と。

問ペートルが斯く主に願ひ求めし時天より如何なる聲ありしや。

答輝ける雲彼等を蔽ひ、雲より神父の聲ありて曰く「此は我の至愛の子我が喜べる者なり彼に聽け」と。

問弟子等は此天よりの聲を聞きて如何にせしや。

答彼等は恐懼慄きて地に平伏したり。

問此時主は彼等を如何に引き立てしや。

答主は彼等に近づき、彼等に手を按けて曰く「起きよ懼るゝ勿れ」と。

問弟子等が主の言に氣を得て目を舉げし時、彼等の前には誰のみ残り居りしや。

答唯主イ、ス、の居給ひし外に何人をも見ざりき。

問彼等山を下りし時主は弟子等に何を戒めしや。

答主は彼等に戒めて「人の子が未だ死より復活せざる先には見たる事を人に告ぐる勿れ」と云へり。

問何故に此祭を一名變容祭と名づくるや。

答主がフ、ワ、エル山に於て神の光榮を顯はし、時其容の變じ給ひしに因るなり。

問此祭日には信者の間に如何なる風俗行はるゝや。

答信徒各果實を聖堂に獻げて神の祝福を禱るの風俗あり。

第十二、聖母就寢祭の事

問聖母就寢祭は何時行はるゝや。

答毎年八月二十八日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答此祭は主の昇天の後十五年を経て、至聖生神女が平安なる寢に就きし事蹟を記念するが爲に立てられたり。

問聖母マリヤは主の昇天の後常に何處に居りしや。

答常にイエルサリム内の聖使徒イオアンの家に住み居たり。

問如何なる因縁によりて彼は常に聖使徒イオアンの家に止り居りしや。

答會て主が十字架の上に苦難を受けられし時、傍に立てる其母と愛する所の弟子イオアンを見て、彼等に遺言して曰く「婦よ、視よ爾の子なり」と、又イオアンに向ひて曰く「視よ爾の母なり」と、而て此時より聖母は聖使徒イオアンに引取られたり。

問聖母マリヤは聖使徒イオアンに引取られし後、常に如何なる場處に

て祈禱せられしや。

答彼は教主が道を傳へし所の故蹟を慕ふて、常に其場處に到りて祈禱せられたり。

問或時は彼の主の昇天の故蹟なるエレオン山にて祈禱せられし時神より如何なる告を受けしや。

答彼は天使長ガウソイルより今より三日の後に世を逝るべしと告げられたり。

問彼はエレオン山より歸りし後誰に此事を告げ知らせせむや。

答彼は此事を聖使徒イオアン及びイエルサリムの初代主教たりし主の兄弟イアコフに告げ知らせたり、而て此二人よりして又總ての兄弟に告げ知らせたり。

問彼は此時四方より集り來りし衆信者の哀慟するを見て、如何に彼等を慰めしや。

を慰めしや。

答彼は天に在りて衆信者の爲に祈禱すべしと約して彼等を慰めたり。問此時衆信者の前に如何なる奇蹟現れしや。

答四方に散じ居りし總ての聖使徒等は此時突然彼等の前に集り來りたり。

問聖母の終に寢に就きし時には如何なる奇蹟現れしや。答主は神使と共に現れて其平安なる靈を神の國に迎へたり。

問次に其埋葬の時には如何なる奇蹟現れしや。

答神の使は天に在りて聖歌を歌ひ、又耀ける雲は其墓を蔽ひ、而て其棺に觸るゝ者は皆病を癒されたり。

第十二、大祭外の大祭の事

問十二大祭の外に尙教會にて大祭と名づくるものありや。

第十二大祭の外に尙教會には第一救主、第二聖母、第三諸聖人に關する多くの大祭と名づくるものあり。

問神又は救主に關する祭日の中にて、大祭と名づけらるゝものは何々なりや。

答左の如し、第一、救主割禮祭、第二、至聖三者祭、第三、尊き十字架の出行祭、第四、救主自印聖像遷移祭。

問聖母に關する祭日の中にて大祭と名づけらるゝものは何々なりや。

答左の如し、第一、聖母守護祭、第二、聖母顯跡聖像祭。

問諸聖人に關する祭日の中にて大祭と名づけらるゝものは何々なりや。

答左の如し、第一、前驅イオアン誕生祭、第二、前驅イオアン致命祭、第三、神使首ミハイル及び無形軍の會聚祭、第四、聖使徒福音者イオアン記憶

祭、第五、聖使徒ペートルパウエル記憶祭、第六、聖預言者イリヤ記憶祭。

第七、奇蹟者聖ニコライ記憶祭、第八、ゲサリヤの天主教聖大ワシリイ

記憶祭、第九、神學者聖グリゴリイ記憶祭、第十、聖金口イオアン記憶祭。

第十一、三成聖者大ワシリイ神學者グリゴリイ金口イオアン記憶祭。

第十二、モスクワの府主教聖ペートル記憶祭、第十三、モスクワの府主

教聖アレキセイ記憶祭、第十四、モスクワの府主教聖イオナ記憶祭、第

十五、三成聖者モスクワの府主教ペートルアレキセイイオナ記憶祭。

第十六、モスクワの府主教聖ヒリッポ記憶祭、第十七、ラドネジの奇蹟

者克肖なるセルギイ記憶祭。

救主割禮祭の事

問救主割禮祭は何時行はるゝや。

答毎年一月十四日に行はる。

問此祭は教主の如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答我等の主イ、スハリストスが降誕の後第八日にモイセイの法律に
従ひて割禮を受け、且つ之と共に其名をイ、ス、と名づけ給ひし事
蹟を記念するが爲に立てられたり。

問割禮は其初め誰に因りて立てられしや。

答舊約に於て神がアウラアムと約束を結ばれし時、其約束の表證とし
て之を立てられたり。

問此割禮は何人の上に行ふものなるや。

答出生後八日目の男兒に行ふものにて、此際其生兒の命名をも行ふな
り。

問主が殊更に此割禮を受け給ひし事柄は、我等に對して如何なる教訓
を示すものなるや。

答我等も亦神の法律及び教會の規定を堅く守るべきの教訓を示すも
のなり。

問教會は此割禮祭に於て我等に何を教ふるや。

答我等が此祭日に於て靈の割禮即ち邪念邪慾を殺ぐべきことを教ふ
るなり。

至聖三者祭の事

問至聖三者祭は何時行はるや。

答此祭は聖神降臨祭の翌日に行はる。

問教會は何の爲に此祭日を立てられしや。

答聖神は我等の救贖を完備して諸の異端邪説を排除したるを感謝す
るが爲に立てられたり。

問此祭の執行は何の日より始めらるや。

答聖神降臨祭の晩課祈禱より始めらる。

問此晩課祈禱に於ては如何なる特別の祝文を誦せらるゝや。

答聖天ワシリーの三祝文を誦せらる。而て此祝文を誦せらるゝ時は素
皆膝を屈して禱る。

問何故に至聖三者祭の晩課祈禱は聖神降臨祭の聖體禮儀と合せらる
るや。

答聖神が聖使徒等に降臨せし時刻に接近せしめて、益々我等の感情を
深からしむるが爲なり。

問尊き十字架出行祭の事

問尊き十字架の出行祭は何時行はるゝや。

答毎年八月十四日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答救主降生後一千百六十四年に露西亞の大侯アシンドレイと希臘の皇

帝ユリヤヌスとが、此尊き十字架の守護によりて敵軍を破りし事

蹟を記念するが爲に立てられたり。

問如何なる理由によりて此祭日を十字架出行祭と名づくるや。

答何となれば此祭日には聖堂より聖十字架と聖像とを携ちて出で

き河或は泉の水を清めらるゝの風俗行はるゝが故なり。

問救主の自印聖像遷移祭の事

問救主の自印聖像遷移祭は何時行はるゝや。

答此祭は八月二十九日に行はる。

問救主の自印聖像とは如何なる聖像なるや。

答救主が曾てエデスの王アウガリに自ら印して遺はしたる聖像を指

して云ふなり。

問 エデスの王アウガリは如何にして此聖像を救主より賜はりしや。

答 彼は久しく病の爲に惱み居りしが、イ、ス、ハリストスなる大奇蹟者の現れたるを聞き傳へて其臣アナニヤを遣し、大奇蹟者イ、ス、の肖像なりとも寫し來るべき旨を命じたり。

問 アナニヤは王の命を奉じて行き終に其目的を達し得たりや。

答 彼は救主の居る處に尋ね行き如何にかして其肖像を畫かんと欲せしかど、群衆の爲に遮られて終に其目的を達すること能はざりき。

問 此時主はアナニヤの希望を察して如何に彼を憐み給ひしや。

答 主はアウガリの心情とアナニヤの希望とを憐み給ひて彼を己の許に呼び近づけ、其聖顔を手巾にて拭ひ、之に己の肖像を印してアナニヤに與へられたり。

問 アウガリは主の自印聖像を得て如何に喜びしや。

答 彼は大に喜びて主の聖像を伏し拜み、且此時より其病の輕快を覺ゆるに至りたり。

問 其後彼は誰に因りて其病を癒されしや。

答 聖使徒フ、デイに因りて全く其病を癒され、且彼よりハリストスの教を傳へられたり。

問 彼はハリストスの教を聞きて如何なる決心を起せしや。

答 遂に洗禮を受け、且エデスの住民をもハリストスの教に歸せしめたり。

問 此後アウガリは救主の自印聖像を何處に安置せしや。

答 彼は此聖像を都城の入口の門の上に立て、此門を出入する者をして皆此聖像に禮拜せしめたり。

問 後數年を経て此聖像は何處の地に遷されしや。

答希臘の皇帝ロマンラカベンがエデス民の捕虜二百人と二萬銀の報酬を以て、此聖像をエデス民より購ひ求めて之をエデスより希臘の帝都に遷したり。

問此聖像は何時如何にしてエデスより希臘に遷されしや。

答其年の八月二十九日に至と盛なる式を以てエデスより希臘に遷されたり。

問教會は此事を記憶するが爲に殊に何を定めしや。

聖母守護祭の事

問聖母守護祭は何時行はるや。

答毎年十月十四日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答ヘリストス降生後九百十一年即ち希臘の皇帝レタの位に在りし時

コンスタンティノポリに於て聖母の空中に顯現れたる事蹟を記念するが爲に立てられたり。

問此奇蹟の顯現は如何なる時起りしや。

答希臘の國がサラチン人の爲に侵されんとせし時、コンスタンティノ

ポリの住民等は一處に集りて終日終夜此厄難の免るゝ事を神に禱り居りしが、此時聖アンドレイ及び其弟子のエピフアニイが聖母の

聖衣の安置せらるゝウラフェルンの聖堂の上に當りて空中遙に聖母の顯現たるを見たり。

問此時聖母は如何なる状態にて現はれしや。

答彼は預言者等聖使徒等及び諸天使等に圍繞せられて下界の衆信者を守護するの状态にて現れたり。

問此顯現のありし後サラチン人等は如何になりしや。

答彼等は大に敗軍して遠く國境外に退きたり。

問何故に今日に於ても此聖母の守護の事蹟を祭るや。

答昔時の事蹟を記念すると共に衆信者に於ける聖母の守護を膺るが爲なり。

聖母顯蹟聖像祭の事

問聖母顯蹟聖像祭は其種類幾何あるや。

答第一ウラディミルの聖母顯蹟像祭第二カザンの聖母顯蹟像祭第三

テフインの聖母聖像顯現祭第四スモレンスクの聖母聖像顯現祭第

五ドンの聖母顯蹟聖像祭第六ノウゴロドの聖母顯蹟聖像祭第七モ

スクワの聖母慰藉聖像祭第八イワニの聖母聖像顯現祭等なり。

問ウラディミルの聖母顯蹟聖像祭は何時行はるゝや。

答此祭は九月八日と七月六日と六月三日との三度に行はる。

問此三度の祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答露西亞の國が此聖像の守護によりて三度外寇より救はれたる事蹟

を記念するが爲に立てられたり。

問カザンの聖母顯蹟聖像祭は何時行はるゝや。

答七月二十一日と十一月四日とに行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答七月二十一日に行はるゝ祭は此聖像がカザンに於て地中より發見

せられしを記念するが爲にして又十一月四日に行はるゝ祭は此聖

像の守護に依りてポリシヤ人の爲に占領せられたるモスクワを恢

復したる事蹟を記念するが爲に立てられたり。

問テフインの聖母聖像顯現祭は何時行はるゝや。

答七月九日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答救主降生後一千三百八十三年に此聖像がノウゴロドの附近に於て
發見せられ且ツテア^ンの修道院を外寇より守護したる事蹟を記
念するが爲に立てられたり。

問スモレンスクの聖母聖像顯現祭は何時行はるゝや。

答八月十日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答此聖像によりて數々奇蹟の顯れし事蹟を記念するが爲に立てられ
たり。

問此聖像は誰に因りて書かれしや。

答此聖像はウラデ^ミルの聖像と同く聖使徒ルカに因りて書かれた

りと言ひ傳へらる。

問此聖像は初め何處に在りて後何處に遷されしや。

答初め希臘に在りしが後露西亞のモレンスクに遷され其後又國難
守護の爲にモスクワに遷され以來六年を経て即ち主降生一千四百
五十六年の八月十日に再びモレンスクに遷されたり。

問ドンの聖母顯蹟祭は何時行はるゝや。

答九月一日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答主降生一千五百九十一年に露西亞の國が此聖像の守護によりて外
寇より救はれたる事蹟を記念するが爲に立てられたり。

問何故に此聖像をドンの聖母聖像と名づけらるゝや。

答ドンのカザンク兵等より大侯デ^イミトリドンスコイに此聖像を

獻せられしに因るなり。

問ノウゴロドの聖母顯跡聖像祭は何時行はるゝや。

答十二月十日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答主降生一千百七十年にノウゴロドに於て聖母の聖像より奇蹟の行はれたる事蹟を記念するが爲に立てられたり。

問モスクワの聖母慰藉聖像祭は何時行はるゝや。

答十一月六日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答主降生一千六百八十八年に總主教イオアキムの實妹エウフィミヤが此聖母の聖像によりて多年の病を癒されたる事蹟を記念するが爲に立てられたり。

問イワエルの聖母聖像顯現祭は何時行はるゝや。

答復活大祭の光明週間の水曜日と十月二十六日と二月二十五日とに行はる。

問是等の祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答光明の週間の水曜日に於けるの祭は此聖像がアフオン山に於て發見せられたる事蹟を記念するものにして十月二十六日に於けるの祭は此聖像がモスクワに遷されたる事蹟を記念するものなり。又二月二十五日に於けるの祭は此聖像をイワエルの修道院に遷されたる事蹟を記念するものなり。

問何故に此聖像をイワエルの聖母聖像と名づくるや。

答何となれば此聖像はアフオン山中のイワエルの修道院に安置せらるゝが故なり。

前驅イオアン誕生祭の事

六八

問前驅イオアン誕生祭は何時行はるゝや。

答毎年七月七日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答聖前驅イオアンの誕生を記念するが爲に立てられたり。

問前驅イオアンは如何なる兩親より生れしや。

答ザハリヤと云へる老年の祭司と其妻エリサワエタの間より生れた
り。

問彼等は常に如何なることを神に禱り居りしや。

答彼等は年老ゆるまで子なきを嘆きて子を授けらるゝことを常に神
に禱り居たり。

問彼等の此祈願は神に聽き納れられしや。

答或時ザハリヤはイエルサリム聖堂の内に在りて祭司の職を行ひし

が、此時神の使は彼に現れて告げて曰く「ザハリヤ懼るゝ勿れ、蓋爾の

祈禱は聞かれたり、爾の妻エリサワエタ子を生まん、爾之をイオアン

と名づけん、爾には喜と樂とあらん、且多くの者は其生るゝに因りて

喜ばん、蓋彼は主の前に大なる者とならん」と。

問ザハリヤは此神の使の告を堅く信ぜしや。

答彼は此事を心に疑ふて信ぜざりしかば、其子の生るゝまで瘡となり
て物言ふこと能はざりき。

問イオアンの生れし時は如何なる奇蹟ありしや。

答彼れの父ザハリヤは簡を請ひて其上に「其名はイオアンなり」と記し、

此時より其瘡癒えて物言ひ始め、其子の行末のことを預言せり。

問此時其場所に居合せし人々は如何に此出來事を奇とせしや。

答彼等は大に怖れて此子は將來如何なるものに成らんかと言ひ合へり。

問イオアンは其齡三十歳に達するまで何處に居りしや。

答彼は野に在りて身には駱駝の毛皮を着、蝗蟲と野蜜を以て食物とせり。

問何故に教會は諸聖人の中、獨前驅イオアンのみに限りて其誕生の日を記憶するや。

答彼れの生涯は福音書中にも記されありて、救主自らも彼を指して女より生れたる者の中にて最大なるものなりと頌讚せられしに因るなり。

問教會は他の聖人に就きては如何なる日を記念日と定むるや。
答彼等が此世の生涯を終りて、永遠の光榮に移りたる日を以て其記念

日と定めらる。

前驅イオアン致命祭の事

問此祭は何時行はるゝや。

答毎年九月十一日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答前驅イオアンが獄牢に於て斬首せられたる事蹟を記念するが爲に立てられたり。

問如何なる原因によりて彼はガリレヤの王イロドアンティパの爲に獄牢に繋がれしや。

答彼はイロドアンティパが人倫の道に背きて、其兄弟の妻イロデアダを娶りし事を痛く譴責せしかば、其怨恨によりて獄牢に繋がれたり。
問聖イオアンの此譴責は殊に何人の怨恨を買ひしや。

答殊にイロデアダの怨恨を買ひたり。

問イロデアダは其怨恨によりて常にイオアンを如何にせんと欲せしや。

答彼は好機會を得てイオアンを殺さんと謀りたり。

問遂に何人がイロデアダに其好機會を興へしや。

答イロド王の誕生日の祝宴の席にてイロデアダの女が其好機會を其母に興へたり。

問イロデアダの女は如何にして其好機會を己れに得たりや。

答彼は祝宴の席に來り舞を爲して席上の人を樂ましめしが、其事大にイロド王の意に適ひて、王は女に向ひ其賞として凡そ求むる所のものは假令其領分の半ばに至るとも之を興へんと誓ひければ、女は母の言ひ含めによりて前驅イオアンの首を王に求めたり。

問イロドは此請求に對して如何に處置せしや。

答彼は大に此請求を憂ひたれども、既に誓ひたることゝて止むを得ず、兵卒に命じてイオアンの首を斬らしめ、之を盆に乗せて其請の如く彼に興たり。

問此後聖イオアンの首級は如何に成行きしや。

答久しく人知れず地中に埋没しありしが、後漸く發見せられたり。

問聖イオアンの首級の發見は今日に至るまで總て幾度ありしや。

答三度ありたり。

問其三度の發見を教會にては何時記憶するや。

答初度の發見と二度目の發見とは三月九日に記憶し、三度目の發見は六月七日に於て之を記憶す。

神使首ミハイル及び其他無形軍の會聚祭の事

問神使首ミハイル及び其他無形軍の會聚祭は何時行はるゝや。
答十一月二十一日に行はる。

問何故に此日に於て神使首及び無形軍の會聚祭を行ふや。
答我等が彼等の守護によりて諸の危難災害より救はるゝが爲なり。

聖使徒福音者イオアン記憶祭の事

問聖使徒福音者イオアンの記憶祭は何時行はるゝや。

答一年の中に二回即ち五月二十一日と十月九日とは行はる。

問五月二十一日に行はるゝ祭は此聖使徒の如何なる事蹟を記念するものなるや。

答此聖使徒の遺骸を其墓より發見したる事蹟を記念するものなり。
問次に十月九日に行はるゝ祭は此聖使徒の如何なる事蹟を記念するものなるや。

答此聖使徒の逝世を記念するものなり。

問彼れの兩親は何と云へる者なりしや。

答彼れの父はゼウエデイと云へるガリレヤの漁夫にして其母はサロ

ミヤと云へる者なり。

問彼は曾て救主より如何に名づけられしや。

答ツォアネルゲス即ち雷の子と名づけられたり蓋其救主を愛するの

情他に越えて深かりしが故なり。

問此聖使徒が殊に傳道せられし地は何處なりしや。

答殊に小亞細亞のエフェス都邑に傳道せられたり。

問彼は羅馬の皇帝ドミチアンの時如何なる迫害を被りしや。

答彼は煮え盛りたる油の中に投ぜられ又は毒藥を服さしめられしかども是等の爲に其身を害することなかりしかば遂にパトモス島に

流されたり。

問彼はハトモス島に在りて何を行ひしや。

答該島の教化者と爲りて此處にもハリストスの教を傳へ、且此島に居りし時に黙示録を書きたり。

問彼は何歳に達せし時何處にて世を逝りしや。

答彼は羅馬のトラヤン帝の時百二十歳の高齡を享けてエフェスの都邑に其天然の壽を終りたり。

聖使徒ペートルパウエル記憶祭の事

問聖使徒ペートルパウエル記憶祭は何時行はるゝや。

答毎年七月十二日に行はる。

問此祭は如何なる事蹟を記念するが爲に立てられしや。

答使徒の首坐なる聖使徒ペートルとパウエルの功績と其逝世とを記

念するが爲に立てられたり。

問何故に彼等は使徒の首坐と名づけらるゝや。

答彼等二人が福音の道を傳ふるに殊に熱心にして、拔群の功績を立てられしに因るなり。

問聖使徒ペートルは其初め如何なる身分の者にてありしや。

答彼は其初めガリラヤのワイフサイダ邑の漁夫なりしが、或時主に召されて其使徒に選ばれたり。

問彼は主の昇天の後何を行ひしや。

答彼は主の昇天の後イエルサリム及び其近傍にハリストスの教を傳へ、且ケサリヤに於て百夫の長コルニリイに洗禮を授け、之を以て異邦人をハリストスの教會に入るゝの例を開きたり。

問彼は此世の生命を如何にして終りしや。

答主降生六十七年に羅馬のネーロン帝の窘逐によりて倒まに十字架に懸けられて致命せり時に其齡七十五歳なりき。

問次に聖使徒パウエルは何處にて如何なる兩親より生れしや。

答彼はキリキヤのタルス邑に於てイウデヤ人の兩親より生れたり。

問彼は何處にて何人より其教育を受けしや。

答イエルサリムに在りて當時有名なりし學者ガマリイルの門に入りて其教育を受けたり。

問彼は何故に其初めハリストス教徒を窘逐せしや。

答モイセイの法律に熱中するの餘り斯くハリストス教徒を窘逐するに至りたり。

問彼はハリストス教徒を迫害せんとしてダマスクに到りし時其途中にて如何なる奇蹟に遭遇せしや。

答突然天より非常なる光ありて彼を環り照し、かば彼は其光に射られて眼眩み地に倒れしに、其時天より「サウル、サウル、何ぞ我を窘逐する」と云ふを聞けり、サウルは驚きて「主よ爾は誰たる」と問ひければ「我は爾が窘逐する所のイ、ス、なり爾前を蹈むは難し」との答を聞けり。

問此畏るべき奇蹟は彼れの頑固なる心を如何に刺激せしや。

答彼は大に前非を悔ひてダマスクに到り、アナニヤより洗禮を受けて其名もパウエルと改め、非常の熱心を以てハリストスの教を萬國萬民に傳ふる者と爲れり。

問何故に彼は異邦人の聖使徒と名づけらるゝや。

答彼は諸國を經巡りて殊に異邦人の間に福音を傳へしに因るなり。

問彼は如何にして此世の生命を終りしや。

答彼は主降生六十八年にネーロン帝の窘逐によりて羅馬に於て斬首せられ、四十一年間の偉績を後世に遺して終に神の國に移りたり。時に其齡六十五歳なりき。

聖預言者イリヤ記憶祭の事

問聖預言者イリヤ記憶祭は何時行はるゝや。

答八月二日に行はる。

問此祭は何時の頃より教會にて行はるゝに至りしや。

答ハリストス教會の最古き時代より行はれたり、其證は四世紀頃の聖師父等が預言者イリヤの記憶祭に就きて説教せられしもの今猶存するを以て知るを得べし。

問何故に教會は殊更に聖預言者イリヤの爲に其記憶の祭日を立てられしや。

答此預言者は救主ハリストスの降生に就きて殊に精密なる預言を爲し、且大なる奇蹟休徴を行はれしに因るなり。

問彼は如何なる奇蹟休徴を行はれしや。

答彼は或時雨降らざることを神に祈りければ三年六ヶ月の間一滴の雨も地に降らず、又或時祈りければ俄に雨降りて其地を潤せり、又サレプタの養婦の女を死より復活せしめ、或はホリツ山に於て神と談話せし等の奇蹟休徴を行はれたり。

問預言者イリヤは如何にして此世より天國に移りしや。

答彼は此世に存命の儘にて直に天に昇りて神の國に入れり。

奇蹟者聖ニコライ記憶祭の事

問奇蹟者聖ニコライ記憶祭は何時行はるゝや。

答十二月十九日と五月二十二日との兩日に行はる。

問十二月十九日に行はるゝ祭は彼れの如何なる事蹟を記念するものなるや。
答彼れの福なる逝世を記念するものなり。

問次に五月二十二日に行はるゝ祭は何を記念するものなるや。

答此聖人の不朽體をリキヤのミラ邑より伊太利亞のバル邑に遷され

たる事蹟を記念するものなり。

問此聖人は何時の頃何處にて生れしや。

答彼は主降生二百八十七年にリキヤの邑バアルに於て素行正しき貴

族の兩親より生れたり。

問彼は其兩親の死せし後如何なる任務に其身を委ねしや。

答彼は其遺産を悉く貧者に分ち與へ其身は修道者となりて教主の墓

を拜せんが爲にイエルサツムに旅行せり。

問彼はイエルサツムより歸りて後如何にせしや。

答ミラの邑に在りて獨竊に神に事へ居りしがリキヤの大主教イオア

ンの死後遂にミラの大主教に撰拔せられたり。

問彼はヘリストス教會の第十回目の大審逐の時如何なる迫害に遭遇

せしや。

答彼はデオクツリアン帝及びマクシミアン帝の審逐の時獄に投ぜら

れ、コンスタンティン大帝の時始めて其刑を解かれたり。

問彼はミラの大主教なりし時に如何なる履歴を遺せしや。

答彼は三百十八人の師父等の數に加はりて第一全地公會に列席し痛

くアリイの異端を駁撃して正教を眞理の上に堅立せしめたり。

問彼は教主降生後何年に世を逝りしや。

答主降生三百四十三年に五十六歳の齡を以て此世を逝りたり。

ケサリヤの大主教聖大ワシリイ記憶祭の事

問ケサリヤの大主教聖大ワシリイ記憶祭は何時行はるゝや。

答一月十四日に行はる。

問聖大ワシリイは何時の頃如何なる両親より生れしや。

答彼はハリストス降生後三百二十九年にワシリイ及びエミリヤと云へる敬虔なる両親より生れたり。

問彼は其幼時何人の薫陶を受けしや。

答殊に其祖母マクリナの薫陶を受けたり。

問彼は壯年に達せし時何處に遊びて其學業を修めしや。

答カバドキヤ及び希臘に遊びて其學業を修めたり。

問彼は其修學中如何なる點に於て他人と異りしや。

答ハリストスの教を深く愛せしと、殊に敬虔なりしとの一事を以て

著しく異りたり。

問彼はハリストスの教會に入りし後如何なる聖務者となりしや。

答イエルサリムに於て洗禮を受けたる後、最初は誦經者に立てられ、後

補者に立てられ、終に司祭に遷されたり。

問彼は其後何處に在りしや。

答野に在りて靜かに其徳を修養したり。

問其後何人が彼を野より呼び招きしや。

答ケサリヤの主教エウセウイが彼を己の補助者たらしめんと欲し數く書を遣して彼を野より招きたり。

問彼はエウセウイの許に在りし間に如何なる事業を務めしや。

答熱心に神の教を傳へ、又其閑暇には著述に其身を委ねたり。

問彼れの著書中最有名なるものは何なるや。

答今日も猶教會にて用ゐらるゝ所の聖體禮儀の書は其最有名なるものなり。

問エウセウスの死後彼は如何なる聖職に選ばれしや。
答彼はケサリヤの大主教に選ばれ十二年六ヶ月の間其職を奉じて教會を治理めたり。

問彼は何歳にして世を逝りしや。
答四十九歳にして此世を逝れり。

問教會は彼れの功績と高德とを頌讚して如何に彼を名づくるや。
答彼を頌讚して聖大ワシリイと呼び全世界の教師と名づく。

神學者聖グリゴリイ記憶祭の事
問神學者聖グリゴリイの記憶祭は何時行はるゝや。
答二月七日に行はる。

問彼は主降生後何年に如何なる兩親より生れしや。
答主降生三百二十八年にカバドキヤの邑アリアンズに於てグリゴリイ及びフンナと云へる貴族の兩親より生れたり。

問彼は何處にて其博學業を修めしや。
答彼は其兩親より家庭の教育を受けたる後當時有名なりしケサリヤ、

アレキサンドリヤ、エフゾンの諸學校に遊びて其學業を修めたり。
問彼はアフリカに修學中殊に何人と深く友誼を結びしや。

答彼はアフリカに修學中大ワシリイと邂逅して彼と最親しき友誼を結びたり。

問彼がアフリカに於て修學中其學業の進歩は如何に著しがかりしや。
答彼はアフリカに入等に惜まれて猶久しく教師とむてアフィンに止ま

りしことを懇請せらるゝまでに其學業の進歩を示したり。

問彼はアフィンを辭して何處に歸りしや。

答兩親の許に歸りて其齡三十歳の時洗禮を受けたり。

問彼はハリストスの教會に入りし後如何なる聖職に就きしや。

答初めは父母の意見に従ひて司祭の職に就き、後聖大ワシリイの推薦によりてカパドキヤの主教に立てられたり。

問彼は其後何處の大主教に選まれしや。

答皇帝フェオドシイ及び第二圣地公會の師父等の推薦によりてコン

スタンティノポリの大主教に選まれたり。

問彼はコンスタンティノポリの大主教に選まれて後永く其職に止り

居りしや。

答彼がコンスタンティノポリの大主教に立てらるゝや或主教等の間

に不平を起す者ありければ、彼は深く其職を辭して己の郷里なるア

リアンズに歸りて靜に讀書著述を以て世を送りたり。

問彼はアリアンズに閑居せし間に如何なる著述を爲ししや。

答正教を擁護して異端を辯駁したるの書を多く著したり。

問彼は何歳にして此世を逝りしや。

答其齡六十二歳にして世を逝りたり。

問教會は彼れの高徳と大智識とを頌讚して如何に彼を名づくるや。

答教會は其高徳を頌讚して聖者と崇め、又其大智識を頌讚して神學者

或は全世界の教師と尊ぶ。

聖金口イオアン記憶祭の事

問聖金口イオアン記憶祭は何時行はるゝや。

答十一月二十六日と二月九日とに行はる。

問十一月二十六日に行はるゝ祭は此聖人の如何なる事蹟を記念する

問十一月二十六日に行はるゝ祭は此聖人の如何なる事蹟を記念する

問十一月二十六日に行はるゝ祭は此聖人の如何なる事蹟を記念する

ものなるや。答此聖人の福なる逝世を記念するものなり。

問次に二月九日に行はるゝ祭は彼れの如何なる事蹟を記念するものなるや。

答主降生四百三十七年に此聖人の不朽體をコマンよりコンスタンテ

ンポに遷したる事蹟を記念するが爲に立てられたり。

問聖金口イオアンは主降生後何年に如何なる兩親より生れしや。

答主降生三百五十四年にセクシド及びアンフーサと云へる兩親より

アンテオヒヤに於て生れたり。

問彼は誰の養育によりて人と成りしや。

答二十歳の時より寡婦と爲りて操正しく世を送りたる其母アンフー

サの養育に依りて人と成りたり。

問彼は何歳の時より何處にて其學業を修めしや。

答十八歳の時よりアンテオヒヤ及びアフィンに於て其學業を修めた

り。

問彼は其修學中如何に學業の進歩を示せしや。

答當時有名なりしリフニと云へる教師の如きは彼を己の養子と爲

さんとせしまでに其學業の進歩著しがらき。

問彼は學業の終りし後何處に歸りて如何なる職務に其身を委ねしや。

答己の母の許に歸りて暫時其徳を修養し居りしが、後アンテオヒヤの

主教メレテイより洗禮を受けてアンテオヒヤ教會の誦經者と爲れ

り。

問彼は其母の死せし後何處へ隠遁せしや。

答其遺産を悉く貧者に施して修道院に入り、居ること三年にして又野

に隠れたり。

問彼は如何なる原因によりて再びアンテオヒヤに歸りしや。

答病の爲に再びアンテオヒヤに歸りしが、以後アンテオヒヤの主教フ
ラツィアンの推薦によりて初め補祭に立てられ、後司祭に遷された
り。

問彼は司祭の職に在ること何年なりしや。

答十二ヶ年の間なりき、而て彼は此間に於て多くの説教と教訓とを後
世に遺したり。

問彼れの説教と教訓とは如何に人々を感動せしめしや。

答人皆彼れの説教を聴くを喜び、其教訓に感動して、彼を金口と名づけ
たり。

問彼は其高德の爲に遂に如何なる聖職を嗣ぐに至りしや。

答主降生三百九十七年にコンスタンティノポリの大主教ネクタリイ
の死後、其後任に推されて遂にコンスタンティノポリの大主教と爲
れり。

問彼れの偉大なる名聲と其人望とは如何に悪人の怨恨を買ひしや。

答悪人等は種々に彼を誣告して遂に彼を流罪に處せしめたり。

問其後アンテオヒヤ人民の聖金口イオアンに於けるの追慕は、彼等を

して再び如何なる處置に出でしめしや。

答悪人等は人民の騷擾を恐れて彼を再び謫處より呼び戻したり。

問其後悪人等は再び彼を如何に虐遇せしや。

答彼等は其後二年を経て再び聖イオアンを遠くアルメニヤのク、ズ
と云へる僻地に謫し、此處より復黒海の沿岸なるピンチウンと云
へる遠地に彼を謫したり。

問彼は此等の虐待によりて如何に其健康を害せしや。

答彼は講處に至るの途中コマンと云へる邑に達せし時益々重病に陥りて甚だ危篤に迫りしかば此地に在りし聖致命者ワシリスクの聖堂に於て聖體機密を領け五十三歳の齡を以て遂に此世の生命を終りたり時に主降生四百七年の九月二十七日なりき。

問當時彼れの聖軀は何處に葬られしや。

答コマンの主教聖致命者ワシリスクの墓の近傍に葬られたり。

問何故に教會は此聖人の記憶祭を九月二十七日に行はずして却て十

一月二十六日に行ふや。

答九月二十七日は舉案聖架祭に當るを以て其同日たるを避けて特に

十一月二十六日に行ふなり。

問教會は如何なる名稱を以て彼を頌讚するや。

答教會は彼が大教訓者たりしを以て大なる全世界の教師と名づけ其大説教者たりしを以て金口と名づく。

三成聖者大ワシリイ神學者グリゴリイ金口イオアン

記憶祭の事

問三成聖者大ワシリイ神學者グリゴリイ金口イオアン記憶祭は何時

行はるゝや。

答毎年二月十二日に行はる。

問此祭は何時の頃に立てられしや。

答希臘の皇帝アレキセイコムニンの在位中即ち十一世紀の終りに於

て立てられたり。

問何故に教會は特に此祭日を立てられしや。

答此三成聖者は皆大智高德の人々にて全世界の教師と名づけらるゝ

者なるが故に、其盛徳を均しく頌讚するが爲に此祭日を立てられたり。

問 教會は此祭日を立て、信者の間の如何なる争論を鎮めしや。

答 人々此三成聖者の優劣を論じて、信者の間自ら分裂を生ずるの恐ありしが、此祭日を立て、より其弊害も亦止みしと云ふ。

モスクワの府主教聖ペートル記憶祭の事

問 モスクワの府主教聖ペートルの記憶祭は何時行はるゝや。

答 一月三日と九月六日とに行はる。

問 一月三日に行はるゝ祭は此聖人の如何なる事蹟を記念するものなるや。

答 此聖人の福なる逝世を記念するものなり。

問 次に九月六日に行はるゝ祭は何を記念するものなるや。

答 主降生一千四百七十二年に此聖人の不朽體を發見し、且其不朽體を

モスクワの生神女就寢聖堂に遷したる事蹟を記念するものなり。

問 聖ペートルは何時の世に何處に生れしや。

答 十四世紀の始にワッサンと名づけられし地方に生れたり。

問 彼は何歳にして修道者と爲るの志を立てられしや。

答 十二歳の時既に修道者と爲るの志を立て、ワッサン地方の或修道院に入れり。

問 彼は修道院に在りて其敬虔なりしが爲に如何なる聖職に遷されしや。

答 初め補祭に遷され、後司祭に遷されたり。

問 彼は修道院に在ること久しかりしや。

答 彼は修道院長の許可を得て修道院を去り、ラカ河の近傍なる野に隱

遺したり

問彼は此處に在りて久く獨居せしや。

答彼れの高徳を慕ふて來り集る者多く遂に一の修道院を成すに至れり。

問彼は修道院長となりて如何に多くの入々より敬ひ崇められしや。

答諸侯及び貴族の人々に至るまで皆彼より降福を受け且彼れの教訓を聽かんことを欲して集り來る者甚だ多かりき。

問其後彼は何人の推薦によりて如何なる聖職に選まれしや。

答全露西亞の府主教マクシムの死後ガリチヤ侯の推薦によりてコン

スタンテイノポリに派遣せられ彼處にて總主教アフナシイの祝

福によりて全露西亞の府主教に叙聖せられたり。

問彼はコンスタンテイノポリより歸りし後何處に在りて府主教の職

を行ひしや。

答當時露西亞の都城たりしウラディミルに在りて其職を行ひたり。

問彼は其在職中國家に對して如何なる功績を遺されしや。

答露西亞の諸侯の間の争亂を鎮めて國內を泰平ならしめ又一千三百

二十五年に大侯イオアンカリタを説きて都城をウラディミルより

モスクワに遷し且つモスクワに聖母の名に依りて大聖堂を建立せ

し等の偉蹟を遺したり。

問彼は其臨終の日の近づきしを知りて如何に己を來世の爲に備へし

や。

答彼は己の死の近づきしを知りし時大聖堂にて自ら聖體禮儀を執行して生者死者の爲に禱り教役者等に最後の訓誡を與へ貧者に慈善を施し其場集りし衆人に降福し而て其祈禱半ばに於て安らかに

其靈を神の聖手に渡したり時に主降生一千三百二十六年の一月三日なりき。

モスクワの府主教聖アレキセイ記憶祭の事

問モスクワの府主教聖アレキセイの記憶祭は何時行はるや。

答二月二十五日と六月二日との兩日に行はる。

問二月二十五日に行はる、祭は此聖人の如何なる事蹟を記念するものなるや。

答此聖人の福なる逝世を記念するものなり。

問次に六月二日に行はる、祭は何を記念するものなるや。

答此聖人の尊き不朽體を發見したる事蹟を記念するものなり。

問聖アレキセイは何時の頃如何なる兩親より生れしや。

答主降生後一千二百九十三年にモスクワに於てフェオドル及びマリ

ヤと云へる貴族の兩親より生れて、初め其名をエレウヘリイと名づけられたり。

問彼れの兩親の貴族たりしことは何に因りて知らるや。

答大族ダニイルの子イオアンが聖アレキセイの代父たりし一事を以て之を知るを得べし。

問彼は如何なることのありし後に、其身を神に獻ぜんとするの決心を起せしや。

答彼は幼少の折、或時小鳥を捕へんとて網を張りて小鳥の來るを見張り居りしが、何時しか氣倦みて其場に徹睡みたり、此時幽に「アレキセイよ、爾何を徒勞を爲すや、今爾は人を獵するの任務を己れに擔ふを知らずや」との聲を聞けり、此事の在りし時よりして彼は俄に無言の性質と變じ、一切の戲遊を棄て、常に聖書を読み、斷食を爲し、祈禱を

爲して日を送りたり。

問彼は何歳にして修道院に入りしや。

答二十歳の時モスクワの神現修道院に入り、此時よりして名をアレキ

セイと改めたり。

問彼は其敬虔なるによりて殊に何人に深く愛せられしや。

答時の府主教フエオグノストに深く愛せられて、彼より教會の事務を

管理するの重職に立てられたり。

問彼は其博識の記念として何を後世に遺されしや。

答希臘の原書とスラワヤンの翻譯書とを對照して編成せられたる自

筆の福音經を遺されたり。

問彼は府主教フエオグノストの推薦によりて如何なる聖職に立てられしや。

答ウラディミルの主教に立てられたり。

問彼は其後幾年を経て府主教フエオグノストの後任に立てられしや。

答其後四年を経て、即ち一千三百五十四年に於てコンスタンティノポ

リの總主教フィロフエイの祝福によりて、全露西亞の府主教に立てられたり。

問彼は府主教の職に在りて如何なる功績を遺されしや。

答彼は國內平和の爲及び教會の幸福の爲に二回コンスタンティノポ

リに旅行し、又二回鞑靼人等の軍營を訪ひ、二回キエフに行き、其外修

道院を建立したる等のことを以て大なる功績を遺されたり。

問彼は享年何歳にして遂に世を逝りしや。

答主降生一千三百七十八年の二月二十五日に八十六歳の齡を以て世を逝れり、而て其聖軀は一千四百三十八年の六月二日に不朽體とし

て發見せられたり。

モスクワの府主教聖イオナ記憶祭の事

問モスクワの府主教聖イオナの記憶祭は何時行はるゝや。

答六月九日と六月二十八日との兩日に行はる。

問六月二十八日に行はるゝ祭は此聖人の如何なる事蹟を記念するものなるや。

答此聖人の福なる逝世を記念するものなり。

問次に六月九日に行はるゝ祭は何を記憶するものなるや。

答此聖人の遺骸の不朽體たりしことを一千四百七十二年の六月九日に發見したる事蹟を記念するものなり。

問聖イオナは何處にて如何なる兩親より生れしや。

答彼はカザン管内のカリチ近傍に於て最も敬虔なる兩親より生れた

り。

問彼は何歳にして何處の修道院に入りしや。

答三十歳の時カリチの修道院に入り、後モスクワのシモン修道院に入

り。

問彼は其後如何なる聖職に選まれしや。

答主降生一千四百三十三年にリヤザンの主教に叙聖せられ、以來十五年を経て即ち一千四百四十八年に於て全露西亞の府主教に立てられたり。

問彼は何處にて府主教に叙聖せられしや。

答希臘の總主教の祝福によりて、全露西亞の大主教等よりモスクワに於て府主教に立てられたり、是モスクワに於て府主教を叙聖したるの嚆矢なりき。

問彼は府主教の職に在りし間に於て如何なる功績を國家と教會とに遺されしや。

答彼は其祈禱を以て一千四百五十六年にモスクワを韃靼人等の侵略より救ひ、教會を羅馬法皇の羈絆より脱せしめ、又國內を諸侯の壓轢より擁護せし等の偉績を遺されたり。

問彼は府主教の職に在ること何年にして何時此世を逝りしや。
答府主教の職に在ること三十五年間にして一千四百六十年の四月十三日に此世を逝れり、而て其遺骸はモスクワの生神女就寢聖堂内に納められたり。

問何故に此聖人の逝世の記憶は四月十三日に行はずして、却て六月二十八日に行はるゝや。
答按ずるに四月十三日は復活大祭の大齋中に當り、或は復活大祭と衝

突することあるを以て、之が爲に其記憶を六月二十八日に變更せられたるものなるべし。

三成聖者モスクワの府主教ペートル・アレキセイ・イオナ

記憶祭の事

問三成聖者モスクワの府主教ペートル・アレキセイ・イオナ記憶祭は何

時行はるゝや。

答十月十八日に行はる。

問此祭は如何なる原因によりて立てられしや。

答希臘の教會にて全世界の教師たる大ワシリイ神學者グリブリー金

ロイオアの三成聖者を記憶するが爲に其記憶祭を立てられしが如く、露西亞の教會にても亦全露西亞の府主教ペートル・アレキセイ・イオナの三成聖者を記憶するが爲に特に此祭日を立てられたり。

問此記憶祭は主降生後何年に立てられしや。

答主降生一千五百九十六年にフエオドル王の勅命に依り、全露西亞の
總主教イオウの祝福を以て新に此祭日を立てられたり。

モスクワの府主教聖ヒリッソフ記憶祭の事

問モスクワの府主教聖ヒリッソフの記憶祭は何時行はるや。

答一月二十二日と七月十六日との兩日に行はる。

問一月二十二日に行はる、祭は此聖人の如何なる事蹟を記念するものなるや。

答此聖人の福なる逝世を記念するものなり。

問次に七月十六日に行はる、祭は何を記念するものなるや。

答此聖人の不朽體を主降生一千六百四十六年にソロヴェツの修道院
よりモスクワの生神女就寢聖堂に遷したる事蹟を記念するものな

り。

問彼は何時の頃に如何なる兩親より生れしや。

答主降生一千五百七七年にモスクワに於てステファン及びワルワラと

云へる侯族の兩親より生れて、初め其名をフエオドルと呼べり。

問彼は其教育を終りし後如何なる職務を行ひしや。

答宮内官となりて常に王宮の内に在りしが、其職務に忠實なると品行

方正なるとに因りて大に國王の寵を被りたり。

問彼は遂に如何なる決心を起して其生涯の方向を定めしや。

答彼は或時一人は二人の主に事ふる能はずとの教主の語を思ひ出で、

斷然世を棄て、密に遠きソロヴェツの修道院に出奔し、名をヒリッソフ

と改めて修道者と爲りたり。

問彼は其後何人の推薦によりて修道院長に立てられしや。

答ソロワニツの修道院長の推薦によりて一千五百四十八年に其修道院長に立てられたり。

問彼は修道院長の職に在ること何年にして其間如何なる功績を遺せしや。

答彼はソロワニツの修道院長の職に在ること十八年にして其間に修道院を修築し諸聖堂を改築し其他多くの功績を遺して其名全露西亞に聞えたり。

問彼は何人に推されて何時府主教に立てられしや。

答國王貴族及び全教會の懇望によりて遂に一千五百六十六年に府主教に立てられたり。

問彼は府主教の職を行ふこと嚴なりしが爲に何人に厭忌せられしや。

答國王及び其侍臣等に厭忌せられて大に彼等より憎まれたり。

問國王及び侍臣等は彼を如何に虐遇せしや。

答彼等は聖ヒリッブを捕へて獄に投じ八日の間食物を與へざりし。

問彼は此後何處へ移されしや。

答モスコワよりツワールの修道院に移されたり。

問以來聖ヒリッブは何人の爲に虐殺せられしや。

答其後凡そ一年を経てマリユタスクラトフなる者の爲に殺せられたり。

問ラドネジの奇蹟者克肖なるセルギイ記憶祭は何時行はるしや。

答十月八日と七月十八日との兩日に行はる。

問十月八日に行はるし此聖人の如何なる事蹟を記念するものなるや。

答此聖人の福なる逝世を記念するものなり。

問次に七月十八日に行はるゝ祭は何を記念するものなるや。
答此聖人の逝世後三十年を経て其不朽體を發見したる事蹟を記念するものなり。

問彼は何時の頃如何なる兩親より生れしや。

答主降生一千三百十四年にロストウに於て敬虔なるキリイル及びマリヤと云へる兩親より生れ初め其名をワルホロメイと呼ばれたり。

問彼は初め如何なる性質にて後如何なる性質に變ぜしや。

答彼は其初め甚不敏の性質なりしが後に神の啓發によりて至て聰明敏達びんたつの性質と變じたり。

問彼は其初少の時より如何なる性質を以て他の小兒と異りしや。

答彼は他の小兒の如く遊戯を爲すことを好まず、唯祈禱と聖書を読むことを好みて、水曜金曜の兩日には必ず斷食したり。

問彼は其後兩親と共にロストウより何處に移りしや。

答其兩親と共にロストウよりラドネジに移りたり、之に依りて後世彼をラドネジの奇蹟者と名づくるに至りたり。

問彼は其兩親の世を逝りし後何處に隱遁せしや。

答父母の遺産を悉く貧者に施與してステファンと云へる己の一人の弟と共に、ラドネジより五里の奥なる山中へ隠れたり。

問彼は此深山に在りて獨居すること何年なりしや。

答二年の間なりき、而て彼は其間に於て嚴寒をも厭はず、猛獸をも意とせず、唯勞働と儆醒けいせいと禁食きんじくとを以て其日を送りたり。

問彼は其後如何にして修道院長と爲りしや。

答彼の徳を慕ひて四方より集り來る者多く遂に一の修道院を成せしかば、彼は修道院長と爲りて猶一層の苦業を積まれたり。

問彼の苦業の狀態は如何様なりしや。

答彼は自身にて四種の草菴を造營し、或は薪を伐りて之を運び、或は粉を挽き、餅を焚き、食物を煮、衣服を縫ひ、水を汲ひ等、一日の中間斷なく勞働し、且夜に至れば長き間祈禱を爲し、而て日々の食物は唯餅と水とのみなりき。

問彼は其後兄弟等の請に依りて如何なる聖職に選まれしや。

答府主教の代理なるマ・ソリンの主教ア・マ・ナシイの祝福によりて最初補祭に立てられ、後又司祭に立てられたり。

問彼は修道院兄弟等を如何に親切に監督せしや。

答彼は數々密に兄弟等の草菴を訪ひて、若し彼等が祈禱を務め居るを見れば大に喜びて歸り、又空談雜話など爲し居るを見れば靜に其戸を叩きて注意を與へ、其談話を中止せしめて歸りたり。

問彼は其高德なるに依りて如何なる人々より尊敬せられしや。

答彼は其高德によりて常に普通人民より尊敬せられしのみならず、亦諸侯貴族の人々及び府主教等にも尊敬せられたり、假令は大侯デ・イミトリイの如きは彼を其太子の代父に請ひたるの一事を以て察するを得べし。

問彼は一度如何なる聖職に擬せられしや。

答府主教アレキセイの選抜によりて其後任者に擬せられしかど、飽まて謙遜にして之を辭退したり。

問彼は何歳にして何時此世を逝りしや。

答主降生一千三百九十二年の十月八日に七十八歳の高齡を以て此世より神の國に移りたり。

教會祭日問答終

明治三十四年十月五日印刷
明治三十四年十月廿五日發行

(正價金九錢)

翻譯者兼
發行者

松本高太郎

東京府下豐多摩郡千駄ヶ谷村三十九番地

印刷者

中野鏝太郎

東京市京橋區木挽町九丁目三十二番地

發行所

正教會事務所

東京市神田區東紅梅町六番地

發賣所

愛社

東京市神田區北甲賀町十三番地

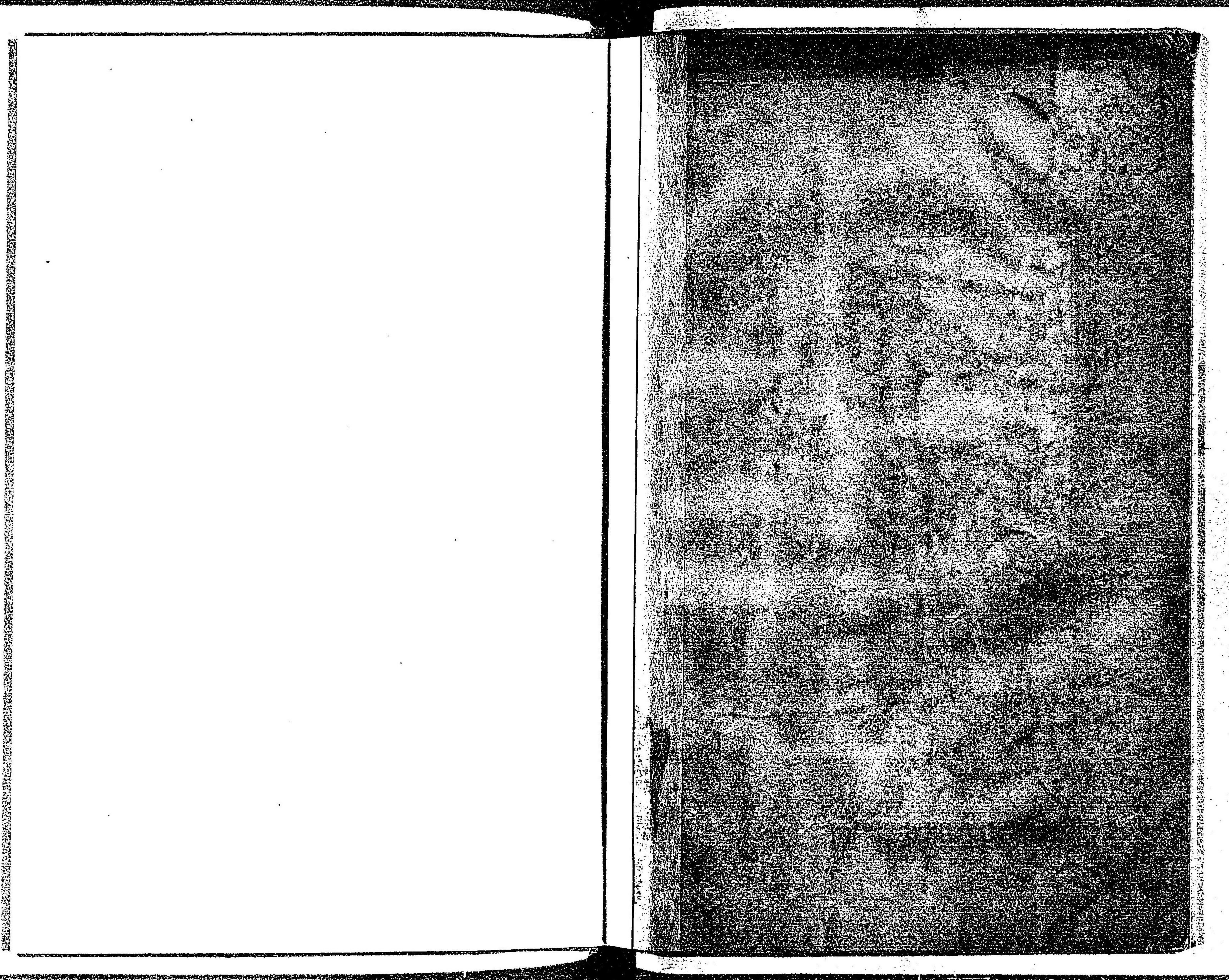
印刷所

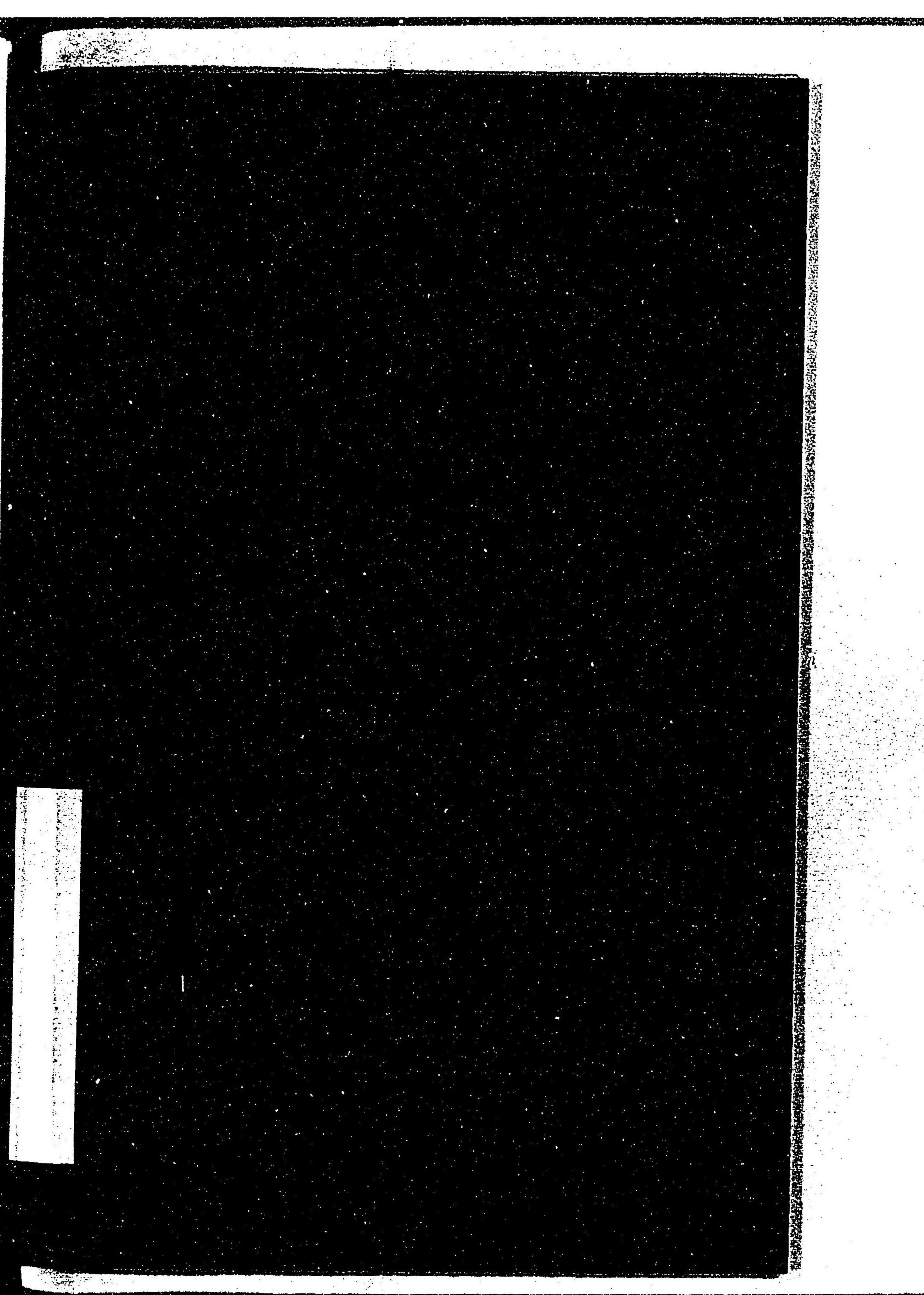
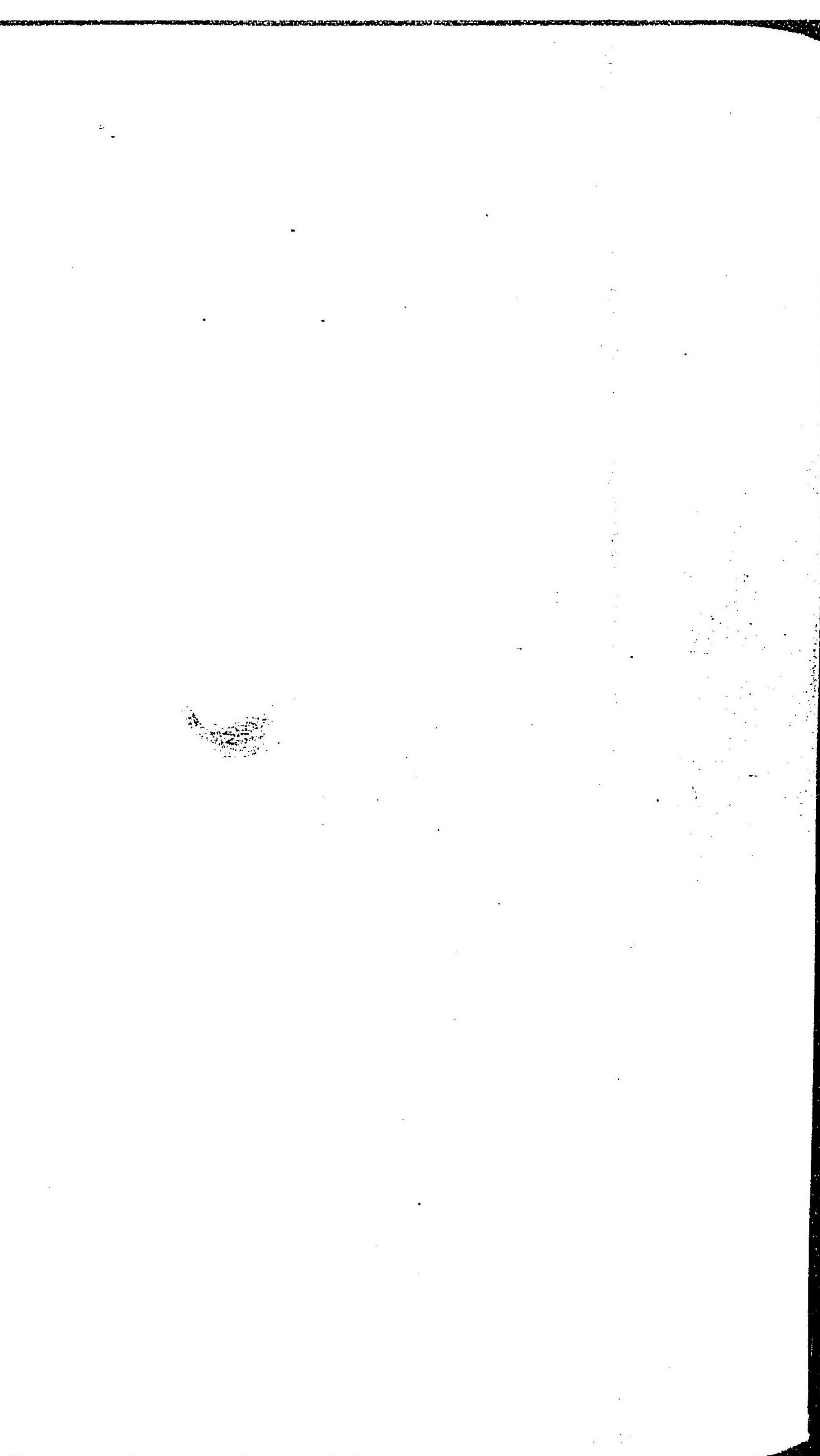
帝國印刷株式會社

東京市京橋區築地三丁目十五番地

216
611

Vertical text columns on the right page, likely bleed-through from the reverse side. The text is faint and difficult to decipher but appears to be organized into several columns.





特18

118

教会祭日問答

国立国会図書館

020383-000-5

特18-118

教会祭日問答

ア. ロマノフ / 編

M34

ABI-0190

